

参考

1 PCBとは

PCBとはPoly Chlorinated Biphenyl（ポリ塩化ビフェニル）の略称で、人工的に作られた、主に油状の化学物質です。PCBの特徴として、水に溶けにくく、沸点が高い、熱で分解しにくい、不燃性、電気絶縁性が高いなど、化学的にも安定な性質を有することから、電気機器の絶縁油、熱交換器の熱媒体、ノンカーボン紙など様々な用途で利用されていましたが、毒性が高いことから、現在は製造・輸入ともに禁止されています。

2 PCBが使用された電気機器

PCBが使用された代表的な電気機器等には、変圧器（トランス）やコンデンサー、安定器があります。変圧器とは電圧を変える装置であり、コンデンサーとは電気を一時的に蓄える、電圧を調整する、位相を変化させる、といった効果を持つ装置です。

PCBが含まれている変圧器やコンデンサーは、古い工場やビル等で使用されており、安定器は古い工場や学校等の蛍光灯等に使用されていました。なお、工場や学校などの施設に使用されていた蛍光灯が対象で、一般家庭の蛍光灯にPCBを使用したものはありません。

また、受電設備の電気機器以外にも、1980年までに製造・販売されたX線発生装置、溶接機、昇降機（エレベーター・エスカレーター）制御盤には高濃度PCBを含むコンデンサー等が組み込まれているものがあります。



変圧器（トランス）



コンデンサー



安定器



X線発生装置、溶接機、昇降機（エレベーター・エスカレーター）制御盤

※ 通電中の電気機器は感電の恐れがあり大変危険です。必ず電気主任技術者に御連絡ください。

3 PCBの毒性

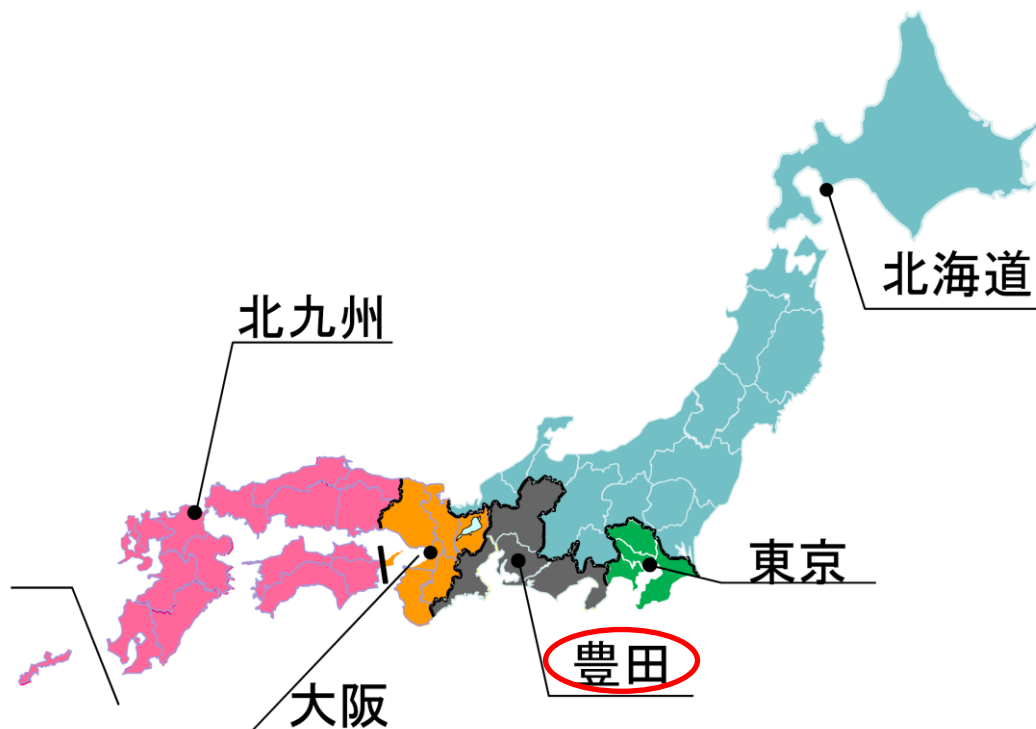
PCBが大きく取りあげられる契機となった事件として、1968年に発生したカネミ油症事件があります。カネミ油症は、1968年10月に、西日本を中心に、広域にわたって発生した、米ぬか油による食中毒事件です。症状は、吹出物、色素沈着、目やになどの皮膚症状のほか、全身倦怠感、しびれ感、食欲不振など多様です。

4 高濃度PCB廃棄物の処理

高濃度PCB廃棄物は、国が全額出資している中間貯蔵・環境安全事業株式会社ジェスコ（JESCO）が全国5箇所のPCB処理事業所において、処理対象区域を割り当てて進めています。東海4県の高濃度PCB変圧器・コンデンサー等はJESCO豊田で、安定器及び汚染物等はJESCO北九州で処理しています。（次ページ参照）

なお、JESCO北九州において処理される県内の安定器及び汚染物等については、2021年3月末に処分期間が終了しています。万が一、PCBが使用された安定器等が発見された場合は、至急、PCB特措法を所管する各県市まで御連絡ください。

JESCOのPCB処理事業所及び処理対象区域



高濃度PCB使用の変圧器・コンデンサー等の処分期間

処理事業エリア	処理する事業所	変圧器・コンデンサー等の処分期間	【参考】安定器及び汚染物等の処分期間等
北九州	JESCO北九州	終了 (2018年3月31日まで)	終了 (2021年3月31日まで) 【JESCO北九州】
大阪	JESCO大阪	終了 (2021年3月31日まで)	
豊田 (愛知県、岐阜県、 静岡県、三重県)	JESCO豊田	2022年3月31日まで	2023年3月31日まで 【JESCO北海道】
東京	JESCO東京		
北海道	JESCO北海道		